

1 単元名 魅力を伝えて推薦しよう—『雪わたり』—

2 単元について

(1) 単元の概要

学習指導要領では、次のような位置づけになっている。

【第5学年及び第6学年】

1 「知識及び技能」の指導事項

(1) ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

2 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

C 読むこと

(1) エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

本単元では、『雪わたり』を読み、物語の魅力を見つけ、新聞・ポスター・帯紙・ポップなどで紹介するという言語活動を設定した。

『雪わたり』は、宮沢賢治によるファンタジー作品である。リズムのある表現やたとえを使った表現など、多様な表現の工夫が魅力となっている。物語は、中心人物である四郎の目線から語り進められていく。紺三郎は何のために、二人を幻灯会に招待したのか、なぜ12歳以上の兄たちが幻灯会に参加することを断ったのかなど、紺三郎側の目線が明確に書かれていないため、本文の叙述から丁寧に読み解いていく必要がある。そのために、本単元では、きつねに対する2人の気持ちの変化を読み解くことで山場を見つけ、その山場を手がかりにして、作者が伝えたかった思いについて考えさせたい。

本作品は、1921年から1923年にかけて雑誌に掲載された童話である。掲載時から100年もの年月が経過しているため、言葉の変化も少なくない。例えば、本文に登場する「あんまり」や「ぜんたい」、「まるで」などは現在の用法とは異なる意味で使われている。こうした言葉の違和感に着目していくことで、自分が普段使う用法と比較して考える意識をもたせたい。

本作品では直喩や暗喩などの比喩表現が多用されていることで、より『雪わたり』の世界観を美しいものとして描く効果があることを児童に感じ取らせたい。そのために、本文中の比喩表現に着目する際には、比喩表現を使わなかったときとの差異から、比喩を使うことの効果を感じ取らせたい。そして、児童が今後出会う物語文の中で、進んで比喩表現を見つけ、そのよさを味わうことのできるような力を身に付けさせたい。

第1次では、推薦文を書くことを知らせ、学習の見通しをもたせる。その上で、物語の設定やできごと、登場人物同士の関係を捉える。

第2次では、中心人物の気持ちの変化を捉えて山場を見つけたり、本文の比喩表現や反復表現に着目し、それらが作品に与えている効果について考えたりする。また、物語における人間ときつねとの関係について考えたことを手掛かりに、作者が『雪わたり』を通して伝えたかったことを考え、主題に迫る。

第3次では、第2次で捉えた物語における表現の工夫や、受け取ったメッセージなど、視点をもたせ、自分が最も魅力を感じたことを新聞・ポスター・帯紙・ポップで紹介し、友達と共有することで、物語の魅力を見つけながら読む楽しさを実感させたり、同じ作品でも魅力と感ずるところが異なるおもしろさに気付かせたりしたい。

## (2) 単元の観点別目標

知識及び技能：比喩や反復、色彩などの表現の工夫に気付くことができる。

思考力、判断力、表現力等：登場人物や物語など想像して読んだり、表現の効果を考えたりすることができる。  
また、文章を読んでまとめた意見や、感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

学びに向かう力、人間性等：進んで物語の中の表現の工夫や登場人物の関わりを読み、『雪わたり』の魅力を紹介しようとする。

## (3) 児童の実態と指導上の留意点及び合理的配慮（在籍32名）

本学級はこれまでに『いつか大切なところ』において、登場人物の心情の変化を読み取る学習を行った。この物語は、学校や放課後を背景にした設定や、登場人物が小学生であることなどが、児童にとって作品を身近に感じられる要因であったため、本文の叙述をもとに登場人物の複雑な心境や心の変化に寄り添うことができた。『大造じいさんとがん』の学習では、時系列を意識して物語の全体像を捉え、山場を見つけたり、情景描写を見つけてその効果について考えたりした。場面ごとの心情の変化や情景描写から読み取れる心情を捉えることで変容前と変容後が明らかになり、山場を見つけることができた。『雪わたり』では、リズムのある表現やたとえを使った表現など、表現の工夫の効果を考えたり、登場人物同士の関わりを考えながら読んだりして、物語の魅力を見つけ紹介していく。

本学級の児童は、グループで話をしたり、一緒に活動したりすることには活発に取り組むことができるが、自分の考えを説明したり、友達の発言から自分の考えとの相違点や共通点を見つけたりすることには苦手である。伝え合い活動は単調でお互いの考えを一方向的に話して終わっており、考えが深まらない。自分の考えに自信がなかったり、相手の考えをどのような視点をもって聞けばよいのかわかっていなかったりするためであると考えられる。物語の魅力を見つけていく伝え合い活動をする時には視点として、友達の考えとの共通点には赤、違いには青でメモを取ることで視覚的に相違点がわかるようにする。また、聞いてメモを取るだけでなく、なぜそう考えたのか質問をすることによって考えを広げ深められるようにする。

本学級の合理的配慮を要する児童は、注意散漫で集中力がなく授業に参加することが難しい。見通しをもつことで課題に取り組むことができるので、授業1時間の予定を示し、落ち着いて参加できるようにする。

## 3 研究仮説との関連

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができる。

③ 教師の目標（ねらい）と児童（めあて）を明確に設定する。

本単元の教師の目標は、『雪わたり』のリズムのある表現やたとえを使った情景描写など、優れた表現を捉え、その効果について考えさせたり、人間ときつねの関わりを捉えさせたりして、作品の魅力について考えさせることである。この目標を達成させるために、児童の目的として、『雪わたり』を読んで、自分が最も魅力を感じたことを新聞・ポスター・帯紙・ポップで紹介する言語活動を設定した。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができる。

④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

『5. 本時の指導』にて

4 指導計画 (全10時間扱い)

次	時	学習のねらい	児童の学習内容と評価
1	課外	・宮沢賢治に興味をもち、読むことができる。	・並行読書として、宮沢賢治の作品を読む。
	1	・物語の概要を捉えることができる。	・『雪わたり』の絵本の読み聞かせを聞く。 ・時、場、人物など物語の設定を確認する。 評 作品への関心を高め、内容の大体を捉えている。 【思】(発言、ノート)
	2	・印象に残ったところや疑問を書き、考えを共有し、学習の見通しをもつことができる。	・作品の感想を伝え合い、問いや学習の計画を立てる。 ・『雪わたり』の魅力について、新聞やポスター、帯紙など推薦の仕方を工夫し、推薦文を書くことを知る。 評 自分の感想や考えを友達と共有し、学習の見通しをもっている。 【態】(ワークシート、発言)
2	3	・ファンタジーの構造、出来事、登場人物を捉える。	・ファンタジーの構造を知る。 ・出来事をまとめる。 ・四郎とかん子、紺三郎を中心とした関係相関図を書く。 評 登場人物の相関関係や物語の構造、出来事を捉え、本文の叙述を基に書き表している。 【思】(発言、ノート)
	4	・登場人物の会話や行動などの叙述から、物語の「山場」について考えることができる。	・四郎とかん子のきつねに対する考えが大きく変容した場面はどこか考え、「山場」をつかむ。 ・話し合ったことを基に『雪わたり』のミニマルストーリーを書く。 評 四郎とかん子のきつねに対する考えの変容を捉え、『雪わたり』を一文で表している。 【思】(ノート)
	5	・表現の工夫がもたらす作品への効果を考えることができる。	・表現の工夫を、「リズムのある表現」、「たとえを使った情景描写」、「色彩」の3種類に分類する。 ・それぞれの表現がもたらす効果について考える。 評 表現の工夫がもたらす作品への効果を考えている。 【思】(ノート)
	6	・人間ときつねの関係について考えることができる。	・物語全体を読んだり、これまで読んだ物語を思い出したりして人間ときつねの関係について考えたことを書く。 評 人間ときつねの関係について考えている。 【思】(ノート)
	⑦ 本時	・作品のメッセージを考えることができる。	・『雪わたり』から受け取ったメッセージについて学習してきたことを基にして考えをまとめ、共有する。 評 物語全体を振り返りながら作品のメッセージを考え、伝え合っている。 【思】(ノート)
3	8	・『雪わたり』の魅力について考えることができる。	・『雪わたり』の魅力を物語(山場)、表現の工夫、作品のメッセージから考え、特に気に入っている一文を短冊に書く。(考えノートに書く) ・その一文を書いた理由を3人組、全体で共有し合う中で、自分の考えをまとめ、ノートに書く。 評 『雪わたり』の魅力について考え、ノートに書いている。 【思】(ノート)

9	・『雪わたり』の魅力を推薦する文章を書くことができる。	・『雪わたり』の魅力について、新聞やポスター、帯紙など推薦の仕方を工夫し、推薦文を書く。 評 『雪わたり』を推薦する文章を工夫して書いている。 【思】(推薦文)
10	・考えを共有し、自分の考えを広げたり、学習を振り返ったりすることができる。	・前時に書いたものを伝え合う。 ・学習の振り返りをする。 評 『雪わたり』の魅力について考えたり、学習を振り返ったりしている。 【態】(ノート)

## 5 本時の指導 (7/10)

### (1) 目 標

- ・作品のメッセージを考えることができる。

### (2) 仮説との関連

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができるだろう。




#### ④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

本時では作品のメッセージについて考え、友達と交流させることで、様々な捉え方があることを感じ、そこに物語の楽しさを味わうことができると考える。対話を通して自分の考えを再認識したり友達の考えを聞いて新たな考えをもったりする態度を育てるために、小グループでの伝え合う場を設ける。伝え合い活動をする時には視点として、友達の考えとの共通点には赤、違いには青でメモを取ることによって視覚的にわかるようにする。また、聞いてメモを取るだけでなく、なぜそう考えたのか質問をすることによって考えを広げ深められるようにする。

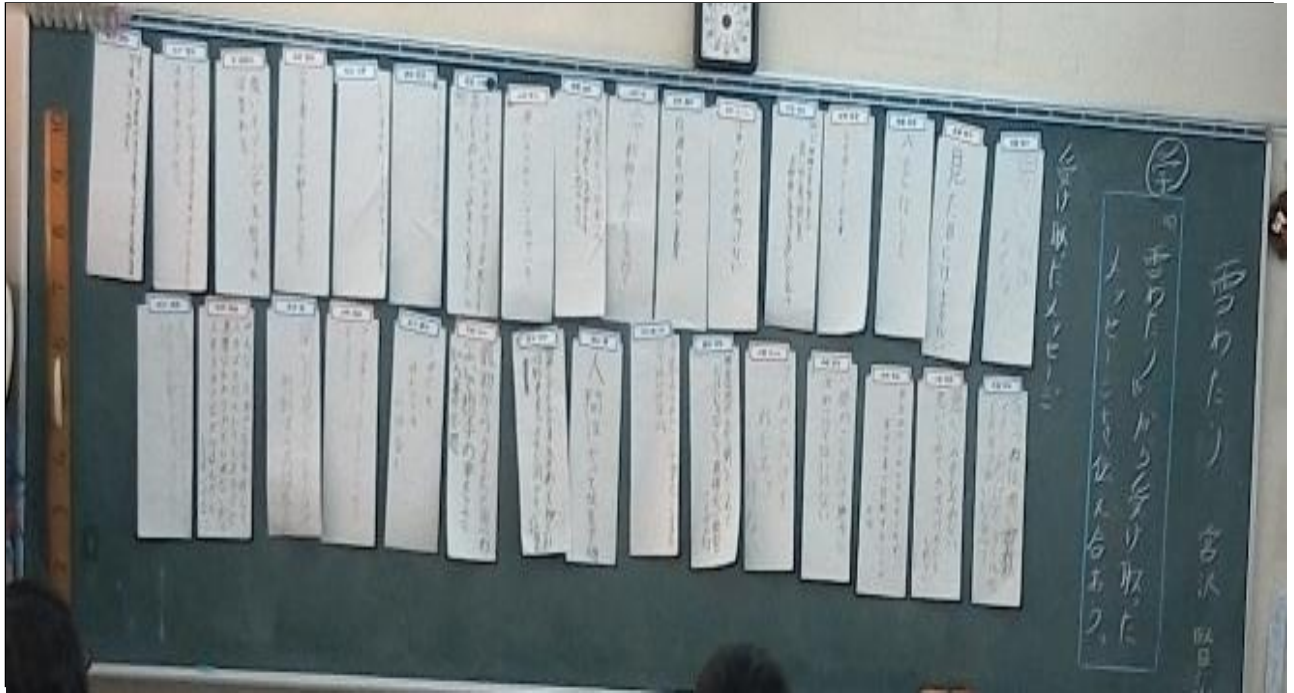
### (3) 展 開

◎印は、仮説との関連  
評(評価) 手(手立て)

学 習 内 容	授 業 の 実 際 と 考 察 ----- 実 際 の 児 童 の 様 子 -----	時 配 <small>( ) は実際に かかった時間</small>
1 本時のめあてをもつ。 『雪わたり』から受け取ったメッセージを伝え合おう。		2 (2)
2 前時までの学習を振り返り、物語全体を想起する。	・既習の掲示物を使い、想起しやすいようにした。	3 (5)
3 『雪わたり』からどのようなメッセージを受け取ったか、短冊に書く。 ・噂話を信じない。 ・本当はきつねはやさしい生き物だよ。 ・子どもだったら仲良くできる。 ・悪いきつねだけではない。 ・知らない内に決めつけはいけない。 ・大人になっても嘘やねたんだりしない。 ・悪い評判をなくすために努力が必要だ。	・作品のメッセージとその理由や説明を短冊に書き、掲示できるようにした。 ・物語全体を通して学習したことを基に、考えるよう指示した。 手 前時の人間ときつねの関係相関図からどのようなことが言えそうかを考えさせた。	10 (10)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・信じあうことが大切だ。</li> </ul>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で確かめる前に噂話を信じない。</li> <li>・きつねにはよいきつねと悪いきつねがいる。</li> <li>・人ときつねはわかり合える。</li> <li>・悪い評判は自分の努力で正せる。</li> <li>・きつねはよい生き物だ。</li> </ul> </div>	
<p>4 書いたことを共有する。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・きつねはだますものと思われていたけど紺三郎たちは信頼できたから。</li> <li>・きつねは悪いイメージがあるけど、雪渡りでは優しかったり、面白かったりしたから。</li> <li>・幻灯会は 11 歳以上は入れないので子どもだったら信じられる。</li> <li>・人間の子どもに信じてもらえてきつねたちはとてもうれしそうだったから。</li> </ul>	<p>◎班→全体で伝え合った。</p> <p>◎全体で伝え合う際は、黒板に掲示し、相違点や共通点を探したり、気になる文を見つけたりしながら、様々な考えに触れられるようにした。</p> <p>◎友達の考えとの共通点には赤、相違点には青でメモを取ることで視覚的にわかるようにした。</p>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紺三郎たちは信じてもらえるように努力していた。</li> <li>・きつねは悪いイメージがあるけど、紺三郎たちは違うから。</li> <li>・四郎とかん子に信じてもらえたときうれしそうだった。</li> </ul> </div>	<p>20 (20)</p>
<p>5 最終的な自分の考えをノートにまとめる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを通して、自分が一番納得した考えについて書くように指導した。</li> </ul> <p>評 作品から受け取ったメッセージについて書いている。 【思】(短冊・ノート)</p> <p>手 自分の力で見つけられない児童には個別に対話をすることで考えに近いものを選ばせるようにした。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>時間が足りなくなったためこの後の展開は次時に行った。</p> </div>	<p>8 (8)</p>
<p>6 振り返りをし、次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が見つけた物語全体を通した魅力の確認をする。</li> </ul>	<p>2 (0)</p>

(4) 板書



6 本単元の成果 (○) と課題 (●)

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を活用して課題を解決する学習活動を取り入れることで、21世紀を生き抜く力を高めることができる。

③ 教師の目標 (ねらい) と児童 (めあて) を明確に設定する。

○児童は、作品の魅力を探し、紹介するという目的意識をもって学習に取り組めたことで、表現の工夫や情景描写に着目し、それを基に表現の効果を考えたり、登場人物同士の関係を捉えたりすることができた。

●自分が魅力を感じたことを新聞・ポスター・帯紙・ポップで紹介する言語活動を設定したが、魅力を感じた理由を表現することができなかった。まずは魅力を伝える紹介文を書き、それを受けて新聞・ポスター・帯紙・ポップ等を作成すれば、より一人一人が見つけた魅力を全体で共有することができただろう。

仮説2 伝え合い活動を効果的に取り入れることで、21世紀を生き抜く力を育てることができるだろう。

④ 考えを広げたり、深めたりできるような伝え合い活動を授業の中に設定する。

○ノートに赤や青でメモを取ることで視覚的に共通点や相違点が見て取れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができた児童がいた。

●児童一人一人の考えを大切に扱いたかったため、取捨選択やグループ分け等は一切せず無作為に黒板に掲示した。情報が多く、自分の意見と他人の意見の共通点や相違点が一目ではわからなかったため、話し合いが活発にはならなかった。教師は、一人一人の考えを大切に扱いつつ、児童が思考しやすいように短冊を操作する必要がある。